

私たちの町の文化財

■第5話 清原神社

清原神社は北岡神社の北側、北岡陸橋の斜面の下の住宅街にひっそりとたたずむ神社です。鳥居の正面に神殿があります。中には男神座像1体と女神座像2体が安置されています。神社の由来は明らかではありませんが、古くから祇園社の森の中にありと記したものであるので、北岡神社が現在地に移されたころ、他の小祠とともにこの地に移されたものと思われます。御祭神は清原元輔です。

清原元輔は平安時代中期の歌人として名を馳せた人物で、勅撰和歌集の選者を務めました。三十六歌仙、梨壺の五人の1人に数えられます。「小倉百人一首」の歌人としての一人としてもよく知られています。清原元輔の娘は皆様がよくご存知の枕草子で知られる清少納言です。清原元輔は藤原氏との政争に破れて、寛和二(986)年に七十九歳で肥後の国司として赴任し、永祚二年(990)年に八十三歳で亡くなるまで肥後を治めていました。清原神社は都に帰れなかったその霊を慰めた跡と伝えられています。この間、肥後の女流歌人として後世に名を残す檜垣とも交流があったと伝えられており、その和歌は元輔集などの歌集の中に、鼓ヶ滝や藤崎宮のような熊本を代表する場所について詠んだ歌が残されています。

熊本市文化振興課 嘉村哲也氏



清少納言のお父さんが
79歳で国司として、
肥後の国に来ていたと
は驚きだモン

